魅力あふれる木造住宅

鳥取、米子で「木の住まいフェア」

鳥取県木造住宅推進協議会の「木の住まいフェア2016」が9月24日に米子市の米子産業体育館で、10月15、16の両日に鳥取市の鳥取産業体育館でそれぞれ開かれた。子育て世代など大勢の家族連れが来場し、木造住宅への関心を深めたイベントの様子を紹介する。

自由工作スペースでは、大勢の家族連れが本箱やいす、棚など思い思いの作品づくりを楽しんだ

鳥取会場

工作や遊びで木を知る

1棟分の柱当たる抽選も

抽選で1棟分の県産杉の柱が当たり、喜びの表情

地元工務店など会員企業が、木造建築の良さやそれぞれの取り組みをPRした鳥取会場（同協議会東部支部主催）。1棟分の県産杉の柱（60本）が当たる抽選会、木を使った工作コーナー、アトラクションも盛況だった。

初日は、県産材に詳しい小畑厚さんと福田充宏さん、2人の「ケンサン」が来場。福田さんは「木も食同様、地産地消が大事。鳥取の木は鳥取の人の生活になじむ」と県産材活用の利点を挙げた。

会員企業で住宅の新改築を予定している人を対象にした抽選で、1棟分の県産杉の柱が当たった鳥取市の太田博子さんは「新しい家は、健康に良いとされるしっくいの壁、（年輪の風合いを生かした）浮造りの床の部屋を作りたい。県産材もたくさん使って」と笑顔だった。

木の良い香りがするかんなくずのプールの中で、景品探しに夢中の子どもたち

米子会場

伝統工法で棟上げ体験

かんな削りなど大工気分

伝統的な工法を体験する子どもたち。屋根の一番高い位置にある部材「棟木」を取り付け、いよいよ完成

米子会場（同協議会西部支部主催）では、住まい造りの伝統技術の紹介などを主眼に展開。木工やかんな削り、ミニ畳製作のほか、くぎを使わない伝統工法で上棟式が体験できるコーナーなどがにぎわった。

棟上げ体験では、実物の約3分の1の大きさのキットを使用。約10人の子どもたちが柱や梁、桁などを組み上げた。最後に完成した屋根の上から餅をまいて、本番さながらに盛り上がった。

また、子どもたちと一緒にかんな削りを体験した倉吉市の佐々木桂子さんは「住宅に求めるのは安心・安全」と強調。木造住宅は間取りなど空間設計の自由度が高いため、「子どもたちに目が行き届く、思い通りの開放的な空間が実現できると思う」とイメージを膨らませた。

大工さんになったつもりで、かんな削りに挑戦

床、天井、柱など県産材を使ったモデルルームを見学する来場者

県産材熟知のアドバイザー「ケンサン」活躍

信頼できる情報を発信

地元の木材をもっと生活に取り入れてもらおうと、鳥取県内各地で13人（東部8、中部2、西部3）の「ケンサン」が活動している。県産材の魅力を熟知したPR隊として、専門家の立場でアドバイスするなど、需要拡大への貢献を目指す。

顔ぶれは多彩。木を育てる森林組合関係者や材木に加工する製材業者、家を建てる設計士、大工、工務店関係者など業界からの推薦で、各分野の専門家が名を連ねている。

活動開始から1年。住宅関連のイベントなどに参加し、豊富な知識と経験を生かして、家造りに役立つ情報を発信している。

県産材製品プレゼントクイズ

Q　鳥取県内産の間伐材（杉、ヒノキ）を使い、県内装協が開発した内装材の商品名を二つ答えてください。

◆抽選で正解者3人に県産杉の鉢置き＝写真＝（八頭町市場の河原木材・遊木倶楽部製作）をプレゼントします。

【応募】〒680－8688（住所不要）新日本海新聞社企画開発部「木づかいの国とっとり」係。日本海新聞HP特集ページからも応募できます。11月8日必着。

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。個人情報は賞品発送以外の目的には使いません。

「住の未来を創る」は鳥取県木材協同組合連合会などの協力で企画しました。

木づかいの国とっとり2016　住の未来を創る　下

地域に豊富にある森林資源の有効活用は、林業・木材産業の活力を高め、地方創生の実現や地域経済の成長につながることが期待されている。森林が全面積の4分の3を占める鳥取県内では、川上から川下まで業界全体で県産材の利用促進を図る推進組織も発足。住宅など建築物への利用拡大を見据え、木材の地産地消に機運が高まる。

鳥取県内装協　内装材開発し販売PR

鳥取県木質内装材開発・販売推進協議会（内装協）が、鳥取県産の杉とヒノキの間伐材を有効利用した内装材を開発した。「とっとり杉ごころ」「とっとり桧ごころ」の商品名で販売体制が整い、工務店などにPRしている。

県内装協は2014年6月、県内の建築設計・住宅推進団体、建材・合板メーカー、製材関係者などが設立。構造材以外で県産材の利用拡大を目指し、業界のノウハウを結集。床板、腰板（壁）として改築での需要も見込める内装材の試作を重ねていた。

腰板（厚さ9ミリ、幅100ミリ、長さ900ミリ）には杉、床板（厚さ15ミリ、幅150ミリ、長さ900ミリ）には杉とヒノキの無垢材を使用。表面を保護し、美観を損なわないようウレタン塗装を施した。無垢の床板の幅150ミリは、通常より広く、仕上がりの見た目も良くなるという。

智頭町森林組合が加工生産、鳥取木材協同組合が販売を担当する。県木材協同組合連合会は「木は循環型の資源で、使うことで森も地域も元気になる。開発されたこの内装材にロゴマークを付けて販売することで、県外産との違いを明確に打ち出していく上でのきっかけになれば」と話している。

開発された内装材「とっとり杉ごころ」

県産材利用促進へ

「木づかいの国とっとりを実現する会」発足、活動

林業や木材産業、設計、建設業の民間団体と鳥取県が連携し「木づかいの国とっとりを実現する会」（前田八壽彦会長）が6月30日に発足。県産材の利用推進に係る課題や解決策について検討し、森林・木材産業の活性化に向けて取り組みを進めている。

8月24日には福祉、学校、建築、建具、家具、行政関係者ら幅広い分野から参加を呼び掛け、意見交換会を開いた。建築物への木材利用でこれまでのPR不足が判明したことから、県内各自治体を回って木材の良さを周知し、公共建築物への県産材利用の意識を高める活動を行う予定。

また、県内の材料や製品、技術により倉庫や事務所、店舗のような中規模木造建築物を建てることが可能となるよう、設計シミュレーションに取り組む。設計完成後は、その成果を基にしたセミナーを開催予定で、技術面でも県産材が使われやすくなるよう後押しする。